

うたごよみ

曾於文藝

俳句

末吉俳句会

近寄れば向き変ふる鯉池薄暑

池田 安起徒

未には少し問のあり未草

泊 康

水すまし老いにも欲しいすいと

原口 サエ子

大陽俳句会

双蝶の寄りては風に離れをり

逆瀬川 節子

十葉や隣へ続く細き道

岩重 みどり

新緑の朝に弾めるランドセル

福村 よう子

短歌

末吉短歌会

赤々と燃ゆるとさかのその奥の
雉の目玉に射すくめらる

泊 康

題字

末吉文化協会会員 瀬戸口 淳民氏

朝まだき「ヒーヒー」聞こゆ四足か
老女は語りき水神の下りを

大森 巳喜生

白き尾を引きつつ機影どこへゆく

紺青の空ひき裂きながら

草野 ミツ子

大陽短歌会

独り居の卓にキャンドル揺るがせて
今日より後期高令者なり

広川 ミドリ

釣り鐘草貰いてひと日の明かるかり

紫の鐘コロココロンと

川辺 敦子

もう着らぬ服を袋につめており

また出してみるやっぱり捨てる

伊勢 タミ子

財部短歌会

うつむけば心のきしむ音のする
皐月の光あまりに眩し

脇丸 洋子

その花は雑草なのよと声かけて
もん白蝶と五月のお散歩

永岡 冴子

薩摩狂句

にがごい会末吉支部

蒔かんとに コロナが芽立つ

世は大騒動 桐野 奈世

婆が目立つ 衣服着て医者に

頼んでね 浜田 一好

爺が頭 草木ん芽立ち

ひっ縮ん 鈴木 一泉

木は芽立つ 爺は縮んくん

小もけなっ 古川 一幹

大陽薩摩狂句会

飲ん会は 下戸じゃが義理で

人数じ加入 津留 群志

年しゆ取れば 義理も減がめつ

楽き暮れつ 小倉 りんりん

音痴じゃが ぐらしで義理で

誉め上げつ 福元 多喜子

少つとんち 太つとか御礼い

義理が重び 西山 美代子

義理交際も 彼家にや一枚

少つのしつ 境 すやすや